

格助詞で終わる文について 「～を/が～に」構文と「～に～を」構文

杉村 泰

1. はじめに

日本語には格助詞で文を終える表現がある。こうした表現は広告のコピー、標語、スローガン、新聞の見出しなどによく見られる。

- (1) a. 「安全」と「快適」をかたちに。(東海理化「チャイルドシート」)
- b. 「話すだけ」から「いろいろできる」へ。(NTT DoCoMo)
- c. その疲れに、リゲインを。(三共「リゲイン」〔栄養ドリンク〕)
- d. 次の日本へ、このメルセデスと。(メルセデスベンツ)
- e. 美肌は「もと」から。(エスエス製薬「ハイチオールC」)
- f. 理想の家を、ステキな町で(名古屋テレビ八事ハウジング)

格助詞で終わる文の特殊性について最初に問題提起を行なったのは李(2002a)である。こうした文について、従来は「本来あるはず」の述語が何らかの理由で「省略」された表現であると説明されてきた。これに対し、李(2002a)はこうした文において必ずしも特定の述語が復元できるわけではないことから、格助詞で終わる文は必ずしも単なる「省略」表現であるとは限らないと主張した。

李(2002a)は格助詞で終わる広告のヘッドラインについて、「発信者」と「受信者」(李の用語では「話し手」と「聞き手」)の情報伝達という点に着目し、記号論の観点から分析を試みた。これに対し、本稿では格助詞のプロトタイプの意味と構文パターンに着目して分析を行なった。本稿では「～を/が～に」構文と「～に～を」構文を取り上げ、その意味の違いについて論じることにする。¹

¹ 次に挙げる文は述語が前に来て倒置文となっている。こうした文は述語が明示されているため、本稿でいう「格助詞で終わる文」とは区別して考えることにする。

2. 格助詞で終わる文の特徴

新聞記事の見出しなどでは、文字数の節約のため、書かなくても分かる述語を「省略」することがある。たとえば、例(2a)は「なる」、例(2b)は「向かう」、例(2c)は「行なう」の省略された表現であると考えられる。

- (2) a. 株券の印刷 不要に(『日本経済新聞』2002.9.10 朝刊)
- b. 筋ジスの松野さん L A へ(『中日新聞』2002.9.29 朝刊)
- c. 過去の清算「経済協力」で(『日本経済新聞』2002.9.10 朝刊)

しかし、中には「本来あるはず」の述語を復元しようとしても復元困難なものもある。たとえば、例(3)は「なる」、「向かう」、「決まる」など、いかなる述語を当てはめてもピッタリ来るものがない。

- (3) a. オーストリア、11月総選挙へ(『日本経済新聞』2002.9.10 朝刊)
- b. 鴻池氏が入閣へ(『中日新聞』2002.9.29 朝刊 p.2)
- c. 古川副長官が大学の客員教授兼務へ(『中日新聞』2002.9.29 朝刊)

一方、例(4)のような表現は、元の述語を復元しようとする、意味的に異質なものが複数想定されてしまう。

- (4) a. おしゃれなママに。(丸栄「婦人シャツ・ブラウス・セーター 5 万枚提供」)
- b. スーツケースは、一歩先に関空へ。(J R「関西空港お手軽きっぷ」)

例(4a)は婦人服の売り出しの広告コピーで、「なろう」、「プレゼントしよう」、「提供します」、「ぴったりです」など様々な述語が想定される。例(4b)は李(2002a、2002b)の指摘した広告コピーで、一人の女性が駅のホームでスーツケースを持た

-
- (i) a. 効け！あなたの疲れに。(中外製薬「グロンサン」〔栄養ドリンク〕)
 - b. 食べにいこうよ、この宿へ(ホテル秀丸)
 - c. キャッチしたい。街の声を。(岐阜県人事委員会・岐阜県警察本部)
 - d. 深くつきあう、旅する人と。(日本航空「マイレージバンク」)
 - e. 始めましょう、ワンステップから！(みなみ新体操クラブ)
 - f. 本場に会おう、台湾で。(日本アジア航空)

ず、身軽な様子で立っている場面を背景にして使われたものである。この文には述語だけでなくガ格主語も明示されていないため、「ＪＲ(発信者)がスーツケースを関空へお届けします」とも読めるし、「客(受信者)がスーツケースを関空へ送る」とも読めるし、「客がＪＲにスーツケースを送ってもらう」とも読めるし、「スーツケースが関空へ送られる」とも読める。読み手は主語を様々に補って文を解釈することができるのである。また、主語だけでなくテンス、アスペクトも「これから届ける」、「今届けているところだ」、「すでに届けた後だ」のように様々に解釈することができる。

例(4)の各表現は、主語、述語動詞、テンス、アスペクト、ヴォイス、モダリティの各要素を欠いているため、一見不完全な文のように思われる。しかし、これらは消費者に商品売り込むという広告コピーとしての伝達機能は十分に果たしている。むしろ、(主語や)述語を欠くことにより、テンス、アスペクト、ヴォイス、モダリティなどの制約から自由になり、一つの文で様々な情報を伝達する効果を持っている。その意味でこれらの文は決して不完全な文ではなく、独自の意味機能を持つ一つの構文であると考えられる。

最後に、例(5)のような表現は「新しい風を送ろう」、「徹底調査をしよう」、「実践をしよう」のように、「勧誘」あるいは「呼びかけ」のモダリティで使われている。

- (5) a. 交流に新しい風を(『中日新聞』2002.9.29 朝刊)
- b. 発生源の徹底調査を(『中日新聞』2002.9.29 朝刊)
- c. 持続可能な「ミニ開発」実践を(『中日新聞』2002.9.29 朝刊)

上の例のように格助詞「を」で終わる表現は、「しよう」のような形式を伴わずとも、「勧誘」あるいは「呼びかけ」の意味で解釈されることが多い。

以上のことから、格助詞で終わる文は必ずしも単なる「省略」表現ではなく、独自の意味機能を備えた一つの構文であると考えられる。

3. 格助詞「に」の意味

格助詞「に」には次のように多様な意味役割が付与されている。

杉村 泰

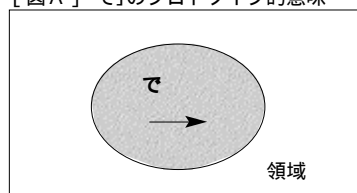
- (6) a. 机の上に本がある/ない。 存在の場所(位置)
b. 映画館に行く。 移動の着点
c. 映画を見に行く。 目的
d. 社会人になる。 変化の結果
e. 友達に本をあげる。 受益者
f. 友達に本を買ってあげる。 受益者
g. 友達に本をもらう。 授与者
h. 犯人に殺される。 受身の対象

しかし、こうした多様な意味役割も抽象化すれば密着の 着点 という概念に集約される(国広(1986)、堀川(1988))。本稿でも格助詞「に」は密着の 着点 を表すとする。

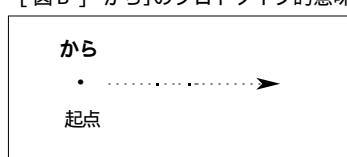
格助詞「に」が密着の 着点 を表すことは、例(7)において格助詞「と」が 相手 を表すことと比較するとよく分かる。² たとえば、(7e)の「彼に話す」は主語が一方的に彼に話しかけることを表すが、「彼と話す」はお互いに話し合うことを表す。(7g)の「彼に恋をする」は彼に対する一方的な片思いであるが、「彼と恋をする」は両思いである。

² 杉村(1999)では「に」、「と」のほかに「で」、「から」との比較も行なった。杉村(2002)ではこれに加え「へ」、「まで」との比較も行なった。これらの格助詞のイメージを図A～図Dに示す。

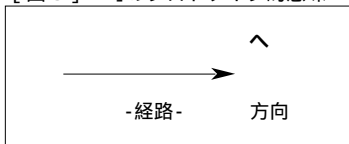
[図A] 「で」のプロトタイプの意味



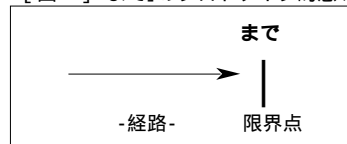
[図B] 「から」のプロトタイプの意味



[図C] 「へ」のプロトタイプの意味



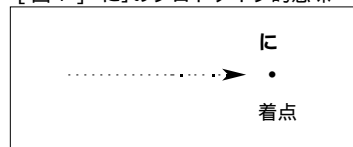
[図D] 「まで」のプロトタイプの意味



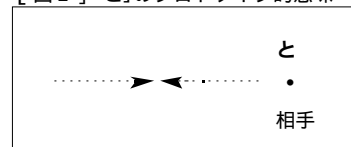
- (7) a. 彼{に/と}似ている。
 b. 彼{に/と}比べる。
 c. 彼{に/と}会う。
 d. 彼{に/と}ぶつかる。
 e. 彼{に/と}話す。
 f. 彼{に/と}相談する。
 g. 彼{に/と}恋をする。
 h. 彼{に/と}キスをする。

こうして杉村(1999、2002)では、格助詞「に」は図1、格助詞「と」は図2のようなイメージで捉えられることを主張した。

〔図1〕「に」のプロトタイプの意味



〔図2〕「と」のプロトタイプの意味



つまり、格助詞「に」と「と」は上の図のようなイメージを言語化したものであり、各意味役割はこのプロトタイプの意味から派生したものであると考えられるのである。

4. 格助詞「に」で終わる文

格助詞「に」で終わる文には次のようなものがある。

- (8) a. 水虫・たむしに(フジサワ「ピロエースW」)
 b. すぐそこに。(ほのぼのレイク)
 c. 心のふれあい暮らしの中に(東京生命)
 d. ころを、ちからに(あいち福祉専門学校)
 e. 本物のグランドツーリングを、あなたに。(スバル自動車「レガシィ」)

杉村 泰

- f. 総額 350 万円でオーナーに！(ローソン「オーナー募集」)
- g. 空気の熱と電気で、エネルギーが 3 倍に。(中部電力「エコキュート」
〔給湯器〕)
- h. おしゃれなママに。(丸栄「婦人シャツ・ブラウス・セーター 5 万枚提
供」)

これらの文において「に」格名詞は、広い意味での何らかの 着点 を表していると考えられる。たとえば、例(8a)の「水虫・たむし」は、「水虫・たむしに効く」の意味で解釈した場合は薬用効果の 着点 として、「水虫・たむしに塗る」の意味で解釈した場合は薬の 着点 として認知されていると考えられる。

5. 「～を～に」構文と「～が～に」構文

格助詞「に」で終わる文のうちよく使われるのは、「～を～に」構文と「～が～に」構文である。前者は他動詞構文、後者は自動詞構文の格構造をとっている。

(9) 「～を～に」構文

- a. 自然をこの手に(赤穂化成「天塩」〔調理用焼塩〕)
- b. 人生の地図をポケットに(浄土真宗本願寺派中央仏教学院通信教育部)
- c. ファブリックを中心に小物までを一堂に。(三越栄本店「初夏のレース
フェア」)
- d. 理想を、現実。に。(明治生命「Life Account」)

(10) 「～が～に」構文

- a. 指先がマッサージ機に！(日本直販「フィンガーバイブレーター」)
- b. できたてが、すぐそこに。(ガスト(ファミリーレストラン))
- c. 空気の熱と電気で、エネルギーが 3 倍に。(中部電力「エコキュート」
〔給湯器〕)
- d. 世界一、愛されている魔法使いが、あなたの家に。
(タイム ワーナー エンターテイメント ジャパン「ハリー・ポッターと
賢者の石」の DVD、ビデオ)

上の例において、「～を～に」構文は「自然をこの手につかむ」、「人生の地図をポケットに入れる」、「小物までを一堂に集める」、「理想を現実に変える」のように、主語の働きかけにより「を」格名詞が「に」格名詞の状態あるいは場所に達することを表し、「～が～に」構文は「指先がマッサージ機になる」、「できたてが、すぐそこにある」、「エネルギーが3倍になる」、「魔法使いがあなたの家に来る」のように、「が」格名詞が「に」格名詞の状態に変化したり、「に」格名詞の場所に移動することを表していると考えられる。

そこで両構文にこうした違いのあることを確かめるために、名古屋大学の学部2年生52名を対象に、格助詞「に」で終わる文の後にどのような述語が続くのかを聞く「述語補充テスト」を行なった(2002年5月24日、30日実施)。その結果を例(11)～(14)に示す。³

(11) 「安全」と「快適」をかたちに。(東海理化「チャイルドシート」)

する/します(19)、した/しました(22)、しよう(4)、しようとする(1)、
作った(1)、表す(1)、示す(1)、変える(1)、×(2)

例(11)の場合、述語動詞は「する」が続くと回答した人が46人で、全体の88パーセントを占めている。例(11)で特徴的なのは、ル形もタ形も半々ぐらいに現れていることである。これはこの文が未来に向けての約束ともとれるし、既に行なったことの報告ともとれることを示している。例(11)は述語を明示しないことにより、テンスの制約から自由になり、自由に時制を解釈できるという効果を持っている。

(12) 社会保障と国民のくらしを予算の主役に(日本共産党)

する/します/いたします(25)、しよう(8)、したい(5)、掲げる(3)、×(3)

³ 以下の調査結果において、()内の数字は当該の語の回答者数を示す。何も述語が入らない、あるいは適当な述語が思いつかないと判断した場合には「×」と回答してもらった。なお、今回は「する」と「します」、「した」と「しました」のような普通体と丁寧体の区別はせず、両者を合計した数字を出した。これは回答者が必ずしも普通体と丁寧体の違いを区別して回答しているわけではないと考えられるためである。

杉村 泰

)、した(2)、している(1)、する(かも)(1)、する予定だ(1)、できれば
なあ(1)、据える(1)、持っていく(1)

例(12)の場合も、述語動詞は「する」が続くと回答した人が43人で、全体の83パーセントを占めている。例(11)との違いは、この場合はタ形をとることが難しいという点にある。これはこの文が未来へ向けての政治スローガンをうたったものだからである。未実現の政策である以上、タ形をとるのは不自然である。この文で特徴的なのは「します」(意志)、「しよう」(勧誘)、「したい」(希望)など様々なモダリティで解釈できるという点である。主語が日本共産党であると捉えられた場合は、述語は「します」、「したい」となり、主語が日本共産党と国民であると捉えられた場合は、述語は「しよう」となる。例(12)は述語を明示しないことにより、モダリティの制約から自由になり、発信者の単独行為とも読めるし、発信者と受信者の共同行為とも読める効果を持っている。

(13) ジヴェルニーのきらめきが、今ここに (名古屋市美術館「モネ展 睡蓮の世界」)

ある(27)、よみがえる(13)、×(4)、現れる(3)、存在する(2)、登場(1)、
来る(1)、やって来た(1)

例(13)の場合、述語動詞は「ある」、「存在する」のように存在を表すものが続くとした人が29人、「よみがえる」、「現れる」、「登場」、「来る」、「やって来る」のように移動・出現を表すものが続くとした人が19人であった。これにより、この文は大きく分けて二つの解釈のあることが分かる。しかし、いずれの場合も「睡蓮で有名なフランスのジヴェルニーのきらめき」が今「名古屋市美術館」に来ているという情報は、発信者から受信者に伝えられており、広告のコピーとしては十分機能している。例(13)は述語を明示しないことにより、「存在」と「移動・出現」の違いから自由になり、どちらの解釈にもとれる効果を持っている。

(14) おしゃれなママに。(丸栄「婦人シャツ・ブラウス・セーター 5 万枚提供」)

なろう(10)、×(8)、なる(5)、ぴったりです(3)、どうぞ(2)、変身する(2)、

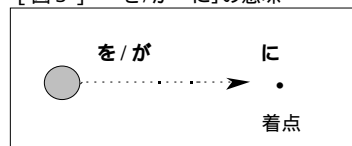
(大)変身しよう(2)、変わろう(1)、変わる(1)、なろう(1)、なるべし(1)、しよう(1)、プレゼントしよう(2)、送る(1)、プレゼント(1)、あげたい(1)、提供します(1)、すすめる(1)、着てほしい(1)、どう?(1)、肌着を(1)、なっ
 ちゃいや(1)、とっておきです(1)、ふさわしい(1)、役立つ(1)、朗報(1)

例(14)の場合、述語だけでなく主語も目的語も示されていない。そのため、主語が「ママ」なら述語は「なろう」、「子ども」なら「プレゼントしよう」、「店」なら「提供します」、「商品」なら「ぴったりです」といった具合に、主語や述語を様々な解釈することができる。受信者は服を着る「ママ」であってもいいし、服を贈る「子ども」であってもいい。その一方で、この文は受信者に対してママに服を買うよう呼びかけているという点で、共通のメッセージを受信者に伝えている。例(14)は述語を明示しないことにより、「主語」の違いから自由になり、様々な消費者に訴える効果を持っている。

以上、格助詞「に」で終わる文について4つの例を見た。これらの文は述語動詞が存在しないため、テンス、アスペクト、ヴォイス、モダリティも明示されていない。そのため、受信者はある程度自由にこの文を解釈することができる。しかし、最低限発信者の伝えたいことは受信者に伝えられている。そうであるからこそ広告コピーとして機能しているのである。これらの文がある程度自由に解釈できる一方で、一定の範囲内の解釈に限定されるのは、格助詞および格助詞の組み合わせに一定の構文的意味が備わっているためであると考えられる。

本稿では「～を～に」構文や「～が～に」構文は、図3のイメージを言語化したものであると考える。図3は「を」格で表された対象あるいは「が」格で表された主体が、「に」格で表された 着点 に到達するイメージを表したものである。

[図3] 「～を/が～に」の意味



6. 格助詞「を」で終わる文

格助詞「を」には次のように多様な意味役割が付与されている。

- (15) a. 彼に本をあげる。 直接目的語
- b. ビルを破壊する。 行為の対象
- c. 君を思う。 感情の対象
- d. 恋をする。 感情の内容
- e. 道を歩く。 経由地
- f. 道を横切る。 通過点
- g. 部屋を出る。 起点
- h. 横を向く。 方向

しかし、こうした多様な意味役割も抽象化すれば広い意味で 行為の影響を受けるもの を表すという点で共通している。格助詞「を」で終わる文は、こうした格助詞「を」のプロトタイプの意味によって解釈が特定付けられるのである。

格助詞「を」で終わる文には次のようなものがある。

- (16) a. いつも、あなたのことを(チューリッヒ保険)
- b. いい聞こえを。(理研産業「デジタル補聴器」)
- c. では、皆さんうまい夏を。(アサヒ飲料「旨茶」)
- d. 年に一度の特別価格で和光の技術を。(和光「和光メガネフェア」)
- e. あなたに未来を(大矢相互不動産)
- f. 行政と住民に、コンピュータの架け橋を。(公明党)
- g. 輝くあなたに、とっておきの一本を (キクチメガネ)
- h. 車社会に夢・豊かさ・安心を(キムラユニティ)

これらの文には「何をどうした」の「どうした」に当たる部分が明示されていない。そのため、受信者は文脈から「を」格名詞がどのような影響を受けるのかを判断し、様々に解釈を加えることになる。たとえば、例(16a)は「いつもあなたのことを考えています/応援しています」、例(16b)は「いい聞こえをお試ください/提供します/追究しています」、例(16c)は「うまい夏をお楽しみください/飲みましょう/お届けします」などと解釈される。

7. 「～に～を」構文

格助詞「を」で終わる文のうちよく使われるのは「～に～を」構文である。

(17) 「～に～を」構文

- a. あなたの心臓に思いやりを (救心製薬「救心」〔強心剤〕)
- b. コンパクトカーに、開放感を！(マツダ「デミオ」)
- c. 体に自然の回復力を。(山田養蜂場「ローヤルゼリーエクストラ」)
- d. ネスレのおいしいコーヒーづくりに、あなたのご意見を！(「ネスレ」)

「～に～を」構文は「心臓に思いやりを与える」、「コンパクトカーに開放感を加える」、「体に自然の回復力を与える」、「ネスレのおいしいコーヒーづくりに、あなたのご意見をください」のように「に」格名詞が広い意味での「場所」として解釈され、そこに「を」格名詞で表されたものがもたらされるといった意味を表している。

矢澤(1997)はガ格・ヲ格・二格の語順について調査し、大きく二つの構文に分類されることを指摘した。

(18) 「位置変化構文」

- a. 太郎が 荷物を 倉庫に 運んだ
- b. 主体ガ格 既存物ヲ格 場所二格(着点) 位置変化動詞

(19) 「発生構文」

- a. 太郎が 庭に 穴を 掘った
- b. 主体ガ格 場所二格(発生点) 発生物ヲ格 生産動詞

「位置変化構文」は既存のものを別の場所に位置変化させることを表す構文、「発生構文」はある既存の場所に何らかのものが生産されることを表す構文である。矢澤(1997)の指摘にもあるように、こうした語順は日本語の中で「構文パターン」として定着している。特別の文脈や発音による強調のない限り、基本的に日本語話者はこの構文パターンに従って文の意味を解釈していると考えられる。こうした構文パターンがあるために、格助詞で終わる文はある一定の範囲内で解釈されるのである。

杉村 泰

矢澤(1997)は「に」格を 場所 に限定して論じているため、「～が～を～に」構文を「位置変化構文」と呼んでいる。しかし、「理想を、現実にする」のように状態変化を表すものもこれと同列に扱ってよいと思われるため、本稿では「～が～を～に」構文を「位置・状態変化構文」と呼ぶことにする。

次に日本語話者が実際にどのように構文パターンを捉えているのかを見る。先ほどと同じように「～に～を」構文について、名古屋大学の学部2年生103名を対象に「述語補充テスト」を行なった(2002年5月24日、30日実施)。その結果を例(20)～(23)に示す。

(20) すべてのまちに図書館を。(日本図書館協会)

作ろう(37)、建てよう(12)、作る/作ります(14)、×(9)、作りたい(5)、建てる(5)、置こう(2)、置く(2)、設置します(2)、設置しよう(1)、設立しよう(1)、備えよう(1)、開こう(1)、そろえたい(1)、設置したい(1)、作ってください(1)、設置してください(1)、設立してください(1)、作れ(1)、設置しとけ(1)、建設する(1)、建てられるわけがない(1)、ください(1)、提案する(1)

例(20)の場合、「ください」、「提案する」、「×」以外は、全て「作る」あるいは「置く」のような製造・設置動詞が続くと回答された。この文は既存の「すべてのまち」に新しく「図書館」が作られるという意味で解釈されるため、「発生構文」として機能していることが分かる。この文で特徴的なのは、モダリティを「しよう」(勧誘)とした人が過半数の55人いたが、それ以外にも「する/します」(意志)、「したい」(希望)、「してください」(依頼)と回答した人もいるということである。述語が「しよう」の場合は日本図書館協会(発信者)と住民(受信者)の共同行為、「する/します」や「したい」の場合は日本図書館協会の行為、「してください」の場合は住民の行為となる。例(20)は述語を明示しないことにより、モダリティの制約から自由になり、発信者の行為とも、受信者の行為とも、発信者と受信者の共同行為とも読める効果を持っている。

(21) 子供たちに、きれいな地球を(名古屋市交通局協力会)

残そう(50)、残す/残します(15)、与えよう(7)、×(6)、あげよう(3)、

見せよう(3)、残したい(3)、渡そう(2)、送ろう(1)、贈りましょう(1)、提供しよう(1)、引き継ごう(1)、つくろう(1)、残しませんか(1)、見せたい(1)、伝えたい(1)、残しとけ(1)、あげる(1)、もたらず(1)、手渡す(1)、受け継がせる(1)、汚させない(1)

例(21)の場合、後に「残す」や「与える」など広い意味での移動動詞が続くと回答された。この文も既存の「子供たち」に「きれいな地球」がもたらされるという意味で解釈されるため、「発生構文」として機能していることが分かる。この文は「しよう」(勧誘)の意味で解釈した人が70人で全体の68パーセントを占めるが、「する/します」(意志)、「したい」(希望)の意味で解釈した人もいる。しかし、「してください」(依頼)の意味で解釈した人はいない。これは名古屋市交通局には環境保護をする役割があると受信者が認識しているためであろう。そのため、例(21)は発信者と受信者の共同行為とも発信者の単独行為とも解釈されるが、受信者の単独行為とは解釈されないのである。

(22) あなたの暮らしに安心と安らぎを(北村調査事務所)

与える/与えます(39)、×(13)、提供します(10)、届けます(8)、お届けします(8)、もたらし(7)、贈ります/送ります(6)、与えたい(2)、届けたい(1)、伝えたい(1)、お届けしたい(1)、あげたい(1)、あげます(1)、どうぞ(1)、渡す(1)、そえる(1)、取り戻す(1)、お求めあれ(1)

例(22)の場合も、後には「与える」や「届ける」など広い意味での移動動詞が続くと回答された。この文も既存の「あなたの暮らし」に「安心と安らぎ」がもたらされるという意味で解釈されるため、「発生構文」として機能していることが分かる。この文は「する/します」(意志)の意味で解釈した人が82人で全体の80パーセントを占め、6人の「したい」(希望)がそれに続く。例(22)は興信所の広告コピーであり、「安心と安らぎ」をもたらすのは広告主の仕事である。そのため、この文は発信者の単独行為であると解釈されるのである。

(23) 簡易包装にご協力を！(マクドナルド)

お願いします(66)、して下さい(14)、×(10)、下さい(2)、しろ(2)、よろ

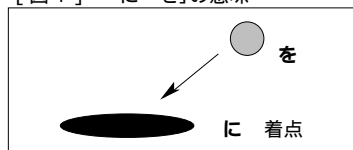
杉村 泰

しくお願いします(1)、願います(1)、願います(1)、願います(1)、願います(1)、
たのむ(1)、よろしく(1)、してよ(1)、する(1)、マック or マクド(1)

例(23)の場合、「お願いします」が66人で全体の64パーセントを占めている。これは「ご協力をお願いします」で一つの慣用表現となっているためであると考えられる。続く「して下さい」以下の表現も「依頼」を表すものとなっている。これは簡易包装に協力するのは受信者である消費者の役割であると解釈されるからである。

以上、格助詞「を」で終わる文のうち、「～に～を」構文について見てきた。「～に～を」構文は、図4に示すような「発生構文」に共通する意味的特徴を持つと考えられる。図4は「に」格で表された既存の場所に、「を」格で表された対象がもたらされるイメージを表したものである。

[図4] 「～に～を」の意味



「～に～を」構文は「発生構文」に共通する意味特徴を持ちながら、発信者と受信者の役割に応じ、勧誘、意志、希望、命令、依頼などのモダリティを伴って解釈されるのである。

8. おわりに

本稿では「格助詞で終わる文」の特殊性について、格助詞のプロトタイプの意味と構文パターンに着目して分析を行なった。その結果、「～を/が～に」構文は「位置・状態変化構文」の意味特徴を持ち、「～に～を」構文は「発生構文」の意味特徴を持っているため、述語が無くても必要な情報が伝達できることを明らかにした。

格助詞で終わる文は、述語動詞、テンス、アスペクト、ヴォイス、モダリティ、時には主語の制約からも一定の範囲内で自由となる。それでいて、事態の発生や変化といった伝達に必要な情報は伝えることのできる特殊な構文なのであ

る。⁴

ところで、格助詞「に」で終わる文が「位置変化」を表す場合は、語順を入れ替えても「に」格が広義の 場所 を表すことに変わりはない。

- (24) a. 本物のグランドツーリングを、あなたに。
b. あなたに、本物のグランドツーリングを。
- (25) a. ジヴェルニーのきらめきが、今ここに。
b. 今ここに、ジヴェルニーのきらめきが。

しかし、格助詞「に」で終わる文が「状態変化」を表す場合は、語順を入れ替えると「に」格の解釈が広義の 状態 から広義の 場所 に変わる。

- (26) a. 「安全」と「快適」を、かたちに。
b. かたちに、「安全」と「快適」を。
- (27) a. 指先が、マッサージ機に。
b. マッサージ機に、指先が。

こうした事実からも、構文パターンには固有の意味が備わっていることが分かる。

参考文献

- 国広哲弥(1986)「意味論入門」『言語』vol.15-12, pp.194-202, 大修館書店。
杉村 泰(1999)「認知イメージに基づく格助詞の指導」『日本語学習者の作文
コーパス：電子化による共有資源化』平成8年度～10年度科学
研究費補助金(基礎研究(A)(1))研究成果報告書(研究課題番号
08558020)研究代表者大曾美恵子, pp.103-118。

⁴ 一般に日本語の文は述語が名詞項を支配し、格助詞は述語と名詞項の関係を表していると説明されている。しかし、格助詞で終わる文を見ていると、まずはじめに「～が～を～に」、「～が～に～を」などの構文があり、次にその構文と意味的に合う述語が選択されていると考えることもできる。本文の例文(3)のような表現は、格助詞「へ」によって事態の進む<方向>が示されているにすぎず、必ずしもピッタリとした述語が復元できるわけではない。それでも意味が伝わるということは、まずはじめに「～へ」という構文が意味を持ち、述語は必要に応じて二次的に加わるものである可能性を示している。

- (2002) 「イメージで教える日本語の格助詞」『言語文化研究叢書』
1, pp.39-55, 名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科.
(杉村論文の PDF 版 <http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~sugimura/>)
- 堀川智也(1988) 「格助詞「二」の意味についての一試論」『東京大学言語学論集
'88』, pp.321-333, 東京大学文学部言語学研究室.
- 矢澤真人(1997) 「発生構文と位置変化構文」『筑波日本語研究』第二号, pp.1-
13, 筑波大学文芸・言語研究科日本語学研究室.
- 李 欣怡(2002a) 『美しい国へ。 格助詞で終わる広告ヘッドラインの一考察』,
名古屋大学大学院修士学位論文.
- (2002b) 「格助詞で終わる広告ヘッドラインの述べかけ方」『平成14年
度日本語教育学会第3回研究集会予稿集』, pp.93-96, 日本語教
育学会.